

刃物で切られたような切り口のあるオキナグサの茎を示す
住民 23日午前、塩谷町大久保



絶滅危惧種のオキナグサ 群生地、多数切られる

塩谷

塩谷町大久保の鬼怒川左岸河川敷にある絶滅危惧種のオキナグサの群生地が23日、保全活動を行う住民が荒らされた跡を見つけた。

周囲の土がはぎ取られ、鋭利な刃物で茎が裁断された花が散乱。跡は50〜60カ所確認された。20日時点で被害はなかったという。

オキナグサは県のレッドデータブックで「絶滅の危機にひんしている生物」の

絶滅危惧Ⅰ類（Aランク）に分類。町は町希少植物保護条例で保護植物に指定している。

開花は3月下旬ごろで、花が落ちた後は果実が白い綿毛のようになり、名称の由来となった翁の頭のようになる。

大久保まちづくり推進委員会の和氣忠永委員長らは同日、花の見頃を前に乱獲防止の看板を立てるため

花が落ちた後、果実が白い綿毛のようになったオキナグサ



群生地に足を運び、被害に気付いた。

広範囲に株が切られている姿を前に、住民らは「自由に観賞してもらおうと立

ち入り制限しない好意を無にする行為」と憤る。観賞者の案内役を務める田代俊夫さん（88）は「これから開花する株を大切に保護したい」と話している。

（伊藤幸司）